

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700933		
法人名	株式会社 アイティーシー		
事業所名	グループホーム 福住苑 (ユニット雅)		
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風平屋建てのホームで2ユニット18人がゆったりと過ごしています。季節感を大切に、職員と入居者が一緒になってホームの飾りつけをするほか、菜園の野菜や花壇の花も、季節の演出をしています。花見や紅葉狩りなど外出の機会が多く、感覚の鈍化を招くことのないよう配慮をしています。また、歌を歌ったり、囲碁や漫談、ウクレレやハーモニカ演奏など、ボランティアの方々、ホームに慰問に訪れることも珍しくなく、パンづくりやおはぎ作りといった「食」にまつわる創作活動も盛んに行っています。認知症の専門医との連携もあり、状況に応じて相談をするほか、平常時の医療面でも、一層の充実を目指し、地域の医療機関との連携や、看護師の雇用など、日頃から介護職員との情報交換がしやすい環境を整備しています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は、理事長が開設当初つくったもので、毎朝「介護は仁なり」と唱和し、優しい介護や仁のころについて職員に話している。入居者は歌が大好きで、訪問時も歌集を開いて懐かしい曲を歌う姿が見られた。その表情は穏やかで各々のペースに合わせ、ゆったりとした支援が行なわれている。「自分が住みたいと思うホームをつくりたい」という理事長の思いは、温水床暖房、高断熱、居室のユニットバスという施設設備にも活かされており、職員は親しみの中にも尊厳を守り、言葉遣いにも配慮し、優しい対応や声かけを目指している。ニーズに応じた講演会や認知症理解への講習会の開催等は、ホームが孤立せず家族、地域との良好な関係づくりに役立ち、町内のグループホームとの交流、情報交換も行っている。家族アンケートでは「笑顔で接してくれる」という意見があげられ、職員からは「自分の親をここへ入れたい」という言葉が聞かれた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号		
訪問調査日	平成22年1月29日	評価確定日	平成22年2月22日

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「介護は仁なり」という運営理念を「人生は、自分の力を信じて歩んでゆく」「人生は支えあって共に歩んでゆく」「福の住まう人生を歩んでゆく」と、より具体的に表現することで職員相互の共有を意識している。</p>	<p>ホーム独自の理念を開設当初より継続している。運営理念「介護は仁なり」を具体的に3項目で表現しており、職員へは「介護は優しくその人の立場に立って親切に」と分かりやすく説明している。地域に溶け込み支えあうホームを目指しているが、地域密着型サービスの意義の理念への盛り込みは今後の検討と考えている。</p>	<p>地域密着型サービスの意義や役割を理解され、地域との支えあいの中でその人らしい暮らしを続ける支援を行っていることから、理念への反映についても検討されることを期待したい。</p>
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>畑での農作物づくりの実践など、地域の方の支援を受けつつ暮らしている。</p>	<p>町内会に加入し、回覧板で地域行事の情報を得たり、ホームの行事案内をして双方に参加している。近くに畑を借りて入居者と季節の野菜を作り、宅老所との交流で近隣の方とも顔馴染みになり、野菜等を届けてくれる方もある。中学生の職場体験学習の受け入れやこども110番の受託をしている。ホームで認知症や薬のことについて地域住民を招いて講習会を開催している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>事業所主催の講演会に、近隣にお住まいの方々を招き、認知症の症状や、支援の手法、認知症医療についての、情報発信を行っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者の家族のほか、民生委員や老人会の方が運営推進会議に出席いただけることで、幅広い視点からのご意見がいただけるようになり、また、ホームの情報も外部に発信されるネットワークが広がった。</p>	<p>2～3カ月に1回、入居者家族、阿久比町福祉課、民生委員、区長、地域包括支援センター、近隣の方の参加を得て開催している。最近の状況、業務活動報告、外部評価などを行ない、出席者から多方面にわたる助言や意見を頂き、参考にしている。家族から出た要望を反映して「薬の基礎知識」や「成年後見制度」の講演会を開催し、理解や支援を得られるよう働きかけている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者とは連絡を密にとっており、わからないことがあれば、助言や指導を仰ぐようにしている。</p>	<p>外部評価結果、ホーム便り等を届けて情報を提供し、常時何か分からないことがあれば連絡し、スプリンクラー設置に関する助言や書類作成の指導を仰いでおり、連携・協働関係が構築されている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>入居者の気持ちに寄り添える努力を行い、身体拘束のないケアを実践している。</p>	<p>契約書第5条で身体拘束をしないホームの方針を提示し、ケアの実践に取り組んでいる。やむを得ず行う場合は、家族に説明して同意書をとるが、現在該当者はいない。門扉は常時施錠している。ホーム前は急な坂道で車の通行も激しく、周辺には山もあるため、安全面を考慮して入居者保護のために行っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新聞報道等を機会ごとに、ミーティングで話し合いの機会をもち、身体的虐待の限らず、精神面での苦痛を入居者に与えることのないよう、日々その防止に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見人制度を実際に利用されている入居者がいるため、実践的に制度についての学習機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、共通認識と理解が得られるよう、わかりやすく説明を行うだけでなく、契約締結後も疑問点が生じた際には、気兼ねなく相談いただける関係の構築を目指している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、家族や入居者の意見を、職員が受け止めた場合には、管理者に報告し、意見の反映に向けての検討を行う手順の習慣をつけを実践している。	意見箱の利用はなく、家族は何か意見、要望があれば面会時等に話されるので、都度思いを気軽に伝えられる環境や機会づくりに努めている。介護に対する意見等はすぐに職員間で話し合い、対応策を即実践している。内容は記録に残し、職員間で情報を共有し、事柄によっては家族へも連絡している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンスなどで、職員からの率直な提案を聞く機会や、意見交換のしやすい雰囲気作りと機会づくりに努めている。	日々、職員一人ひとりがざっくばらんに意見や提案を話せるような雰囲気づくりに努めている。休憩時を有効活用して「共通の介護」を目指し、介護の統一性、方向付けを行っている。2ユニットを全職員で介護しており、平屋で気軽に行き来もでき、職員のチームワークもよい。勤務体制、配置異動も都度、職員の意見を反映し外部研修の受講も奨励している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と直接はなしをする機会を多く持っており、細部まで行き届くよう努めている。職員が気持ちよく仕事のできる職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の受講機会には、積極的に受講を奨励している。持ち帰った情報をもとに、職場内の研修の機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会をはじめ、同業他社との交流活動に参加し、新しいネットワークの構築に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを崩さない程度にコミュニケーションをとることを心がけており、なるべく本人の意向に沿えるよう、時間をかけて不安の除去に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、家族からの「どう接したらいいのかわからない」といった相談や、ホームでの暮らしに対する要望にも、近況報告を交え、丁寧な受けこたえを心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の優先順位の決定には、本人・家族・職員の意見交換により見極めを行うよう心がけている。また、地域住民によるインフォーマルな支援の併用により、多面的な関わりを心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族として、入居者同士も暮らしの中の役割をそれぞれに担いつつ、共にたのしく暮らすことを目標にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場が離れていても、本人と家族との絆が基本と考え、職員は家族への近況報告を通して、積極的に話題提供を行い、面会時には、本人と家族の間のクッションとしての役割を担うよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず、どなたでも面会できる環境を維持したい。本人との会話の中に、家族から情報提供をいただいた馴染みの人や場所の話題を織り込みつつ、忘れない支援を試みている。	知人、友人等自由に面会でき、外部からの電話や手紙も取次いでいる。本人の行きつけの場所、カラオケ、墓参り、温泉へは家族の支援を得て継続している。写真集を持ってきてもらったり、クリスマス会で社交ダンスを披露したりと、その方の好きなことが発揮できる場面づくりに工夫している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や雰囲気を見つつ、必要に応じて職員が話題を転換するなど、間に入ることもある。利用者によっては、そっと一緒の空間にいられることもできるような支援を目指している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。年賀状など、季節の挨拶のほか、退居後に亡くなられた場合でも、家族との付き合いが継続しているケースもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ことばにならない要望や意思の受け止めや、ことばの意味とは違う本来の要望に対する理解など、本人とのかかわりを通して行動からよみとり、職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。	家族からの資料を基に生活歴や好きなこと、苦手なことを理解し、入居者の会話や昔話、顔の表情、つぶやき、しぐさや行動等から思いや意向、希望を把握している。困難な場合は、職員は焦らずゆっくり笑顔で接し、タイミングを計って声かけする中で、一つひとつ解決し、決め付けない介護、対応に心がけている。時には職員と入居者が一対一となる入浴時を活用して意向を聞き、ミーティング、朝礼、業務日誌等で情報や心身状態を職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介者からの情報とともに、入居者のくさやむかし話に耳を傾け、生活暦や、生活パターンの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	病気との兼ね合いや心身の状況や背景となる情報を加味したうえで、入居者の言動について、簡潔な記録の実践を通し、職員相互の情報伝達と状況把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案はケアカンファレンスの情報を反映し、家族や関係者との調整がなされて、入居者にとって快適な生活環境を提供できるよう心がけている。	本人、家族の意向、アセスメント、職員の意見を基に、体験入居中にケアマネジャーが仮プランを作成し、契約時に提示して確認後完成する。通常3カ月毎に見直し、職員からの情報提供、カンファレンスや担当者会議の内容、モニタリングでの評価を踏まえて、少しの変化でも見落とさず現状に沿った計画となるよう努めている。家族には郵送で確認をとり、細かに意見を返信する家族もある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや介護職員からの聞き取りからは、細かな気づきや工夫についての情報が抽出できる。記入時における目的をより明確に表現する取り組みが依然、検討課題である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、その必要性も多岐にわたる。必要性や個別ニーズへの状況に応じた柔軟な対応を目標に、「決めつけない介護」をめざしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源の把握と活用については途上であるが、老人会や行政機関との連携のほか、近隣の中学校からの職場体験学習の受け入れなどを通し、入居者には世代間交流の機会も創出している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには、家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。	提携医をかかりつけとする入居者が多いが、以前からの医師にかかる人もいる。その場合は家族が送迎している。認知症専門医とも連携している。入院時は看護師等と連絡を取り、早期退院に向け支援している。1月から提携医を訪問専門医に変更し、往診もしてもらっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護師による健康管理のほか、准看護師資格を有する職員も在籍し、日ごろから入居者が受診の機会には助言したり、医師の指示を介護職員に伝達する役割を担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、医療機関の担当者への情報提供を行うとともに、入院期間中の情報と、退院後の支援内容についての協議を重ね、面会により入居者の心身の安定をみて、早期の退院支援を行えるよう心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時など、早い段階から本人や家族と、その時点における意向確認の機会を設け、「入居者の心身の状況が重度化した場合における対応に係る指針」の確認・共有できるよう心がけている。また、必要に応じて、一家族ずつの面談も実施している。	入居時からターミナルの場合の希望、緊急搬送先等、詳細に話し合っている。退居条件と同じく、常時医療措置が必要となった場合を重度化とみなし、摂食不能・熱発の継続・意識低下などを目安に家族と相談している。終末期の職員の精神的負担を考え、管理者は「ホームが責任を負うから悔いのないケアを尽くして」と話している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や高齢者特有の疾病による急変への対応について、勉強会を開催するほか、救急救命講習の受講を奨励している。緊急時に動揺しないように、模擬訓練の実施をすることも継続的な課題である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	非常時には、ホームの近く居住する職員のほか、ホーム近隣の住民に協力・支援をいただけるよう、日ごろからの付き合いを大切にしている。避難経路の確認や、消防訓練も定期的実施している。	年1回消防署の指導の下、避難訓練を実施し、実際に入居者も戸外へ避難している。前回の訓練ではAEDの使い方を学んだ。平日頃から近所付き合いがあり、折に触れて緊急時の協力を依頼している。消火器具も業者により年1回点検している。備蓄食料も2週間分用意している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもちながらも、個人の尊厳を守り、慎重に言葉を選ぶ習慣づけを行うとともに、接するときの態度には注意を払っている。	一人ひとりを尊重するとともに、入居者の生活歴に応じた言葉遣いにも気を配っている。その対応の結果心を開き、従前より職員に希望などよく話してくれるようになった人もいる。建築関係の職歴がある人は、設計図面の話が好きで、それに合わせた話題を取り上げて対応している。	訪問時、食事前のトイレ誘導の声かけで、大きな声で話す姿が見られた。知らず知らず声が大きくなっていることも考えられる。再度、職員間で確認されることを期待したい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わからなかったり、決められないときも、あせらずにゆっくりと接するよう心がけ、ことばを置き換えたり、時間を置いてもう一度確認をしたりするなど、希望を表現しやすい手法やタイミングを計っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側が時間配分の主導権を「つい」もってしまいがちなため、ゆったりと流れる時間の中で、生活を支える視点を大切に、できる限り入居者一人ひとりのペースや希望に寄り添えるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの「色」には気がつかず着るものの選定を支援している。理美容は、美容室を開いている入居者の家族に支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や、近所でいただいた果物も食卓を飾り、職員とともに作るパンは、つくることも、たべることも楽しみとなっている。下膳を手伝って、流しに食器を運ぶ入居者は多い。	食事は高齢者用の配食業者を利用しており、訪問時、出された魚には骨がなかった。近所の農家から頂き物があると職員が献立を考え一品添えられる。ホームの菜園もあり、入居者は甲斐甲斐しく作物の世話をしている。また、調理を始め食器洗いなども進んで協力してくれる。水分補給は日に5回を目安にし、摂取量を詳細に記録している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行なうとともに、好みや咀嚼力など身体状況に応じた提供方法を実施している。食事の摂食量や水分量についての確認・記録を継続的に行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日ごろの口腔衛生への配慮として歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。また、歯科医師の検診、義歯調整などの支援により、噛んで食事をとることのできる方が多い。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる部分は見守り、必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。スムーズな誘導を実践し、一人ひとりの排泄のタイミングが安定することで、おむつの消費量を減らすよう心がけている。	見守りが原則で必要に応じて誘導している。排泄は24時間記録され、個々の排泄リズムの把握に大いに役立っている。'臭いがしたり、入居者に恥ずかしい思いをさせたくはない'という理事長の思いを具現化し、各室ユニットバスがあるので着替え、シャワーなど他者に気づかれず支援できている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や食物繊維や乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮しており、会話を楽しみながら、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心がけている。	各居室にユニットバスがあるため何時でも何度でも好きな時間に入浴している。介助が必要な人は共用の浴室で日を決めて週に3回は入浴している。拒否される場合は、話題を変えたり時間をずらしたりして対応している。介護度の高い人には、職員2人で介助を行っている。脱衣時は必ず扉を閉め、バスタオルを巻くようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの安定をはかるよう心がけている。夜間のトイレのパターンなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さりげない支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に薬剤管理を依頼し、重複投与のないよう確認をしている。ホームでは、薬の処方と同時に与えられる情報書を確認し、服薬の支援をすると同時に症状の変化の確認を怠らないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事が気になる入居者には、野菜づくりや水やり、草むしりなどを暮らしの張り合いにしていたなど、家族からの情報や生活暦や好みに応じて、自然体で暮らせる工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に連れ立って出かける機会が多いが、近所の散歩やホームの畑に出ることも含め、ほぼ毎日日の外出を実践している。花見や海を見に出かけたり、季節の催しに出かけることも多く、観劇の機会も設けている。	天気の良い日は、車いすの人も皆で散歩している。人ごみに紛れることもないのでインフルエンザの心配もなく散歩している。歩行の不安定な人も車いすを押すことで、前傾姿勢が矯正され安定して散歩できている。花見など季節の行楽や近くの海を見に行ったり、観劇などにも出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚の維持を目標に、日ごろの会話の中で、物の値段を話題にあげている。職員の見守りのもとで、可能な範囲で金銭に触れる機会を心がけているが、所持することには困難を伴う。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号など数字に対する認識のほか、家族や大切な人のことを思い返すことで、脳への刺激を与えるものとして受け止め、本人の状況によっては、家族への取次ぎの支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、職員と入居者が一緒になって花や壁飾りを替えることで空間演出をし、自然光の入るリビングで、心地よく過ごせるよう心がけている。不快な音や光、振動のほか、除菌やにおいについても快適性を求めている。	高断熱と床暖房のお陰で訪問時にも大変暖かく、夏は逆に涼しい構造になっている。「自分が入るとしたらどんなところに入りたいか」という理事長の理想を実現した建物であり、全館床暖房、高断熱のお陰で居室と廊下の温度差がなく、脳梗塞・心筋梗塞の予防にもなっている。トイレへの通路には歩幅に合わせた誘導用のテープが貼ってある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファのほか、ホームの中を自由に行き来でき、思い思いの気に入った場所で過ごしている。景色のよい窓際や、庭先の花壇の近くのベンチは、季節によって人気がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具やベッドなどを持ち込まれるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで作成し、気に入った作品は、好みの場所への飾り付けて部屋を飾っている。	各居室にユニットバスがあるため、自立の人は気が向いた時間に、1日に何度も入浴している。使い慣れたベッドを持ってきている人もいる。失禁した場合も他者に知られず居室に戻ることで着替え、シャワー浴の支援ができる。各居室には大きな名札がかけられ、施錠もできるようになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ゆっくりつかり歩きをすることにも支障がない。また、戸惑いの表情を見かけたらなら、職員からゆっくり順序だてて説明をし、納得を得るよう、わかる力を活かした支援を目指している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700933	
法人名	株式会社 アイティーシー	
事業所名	グループホーム 福住苑 (ユニット華)	
所在地	知多郡阿久比町大字福住字荒古67-2	
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村受理日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和風平屋建てのホームで2ユニット18人がゆったりと過ごしています。季節感を大切に、職員と入居者が一緒になってホームの飾りつけをするほか、菜園の野菜や花壇の花も、季節の演出をしています。花見や紅葉狩りなど外出の機会が多く、感覚の鈍化を招くことのないよう配慮をしています。また、歌を歌ったり、囲碁や漫談、ウクレレやハーモニカ演奏など、ボランティアの方々が、ホームに慰問に訪れることも珍しくなく、パンづくりやおはぎ作りといった「食」にまつわる創作活動も盛んに行っています。認知症の専門医との連携もあり、状況に応じて相談をするほか、平常時の医療面でも、一層の充実を目指し、地域の医療機関との連携や、看護師の雇用など、日頃から介護職員との情報交換がしやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護は仁なり」という運営理念を「人生は、自分の力を信じて歩いてゆく」「人生は支えあって共に歩いてゆく」「福の住まう人生を歩いてゆく」と、より具体的に表現することで職員相互の共有を意識している。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑での農作物づくりの実践など、地域の方の支援を受けつつ暮らしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所主催の講演会に、近隣にお住まいの方々を招き、認知症の症状や、支援の手法、認知症医療についての、情報発信を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族のほか、民生委員や老人会の方が運営推進会議に出席いただけることで、幅広い視点からのご意見がいただけるようになり、また、ホームの情報も外部に発信されるネットワークが広がった。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡を密にとっており、わからないことがあれば、助言や指導を仰ぐようにしている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の気持ちに寄り添える努力を行い、身体拘束のないケアを実践している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新聞報道等を機会ごとに、ミーティングで話し合いの機会をもち、身体的虐待の限らず、精神面での苦痛を入居者に与えることのないよう、日々その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見人制度を実際に利用されている入居者がいるため、実践的に制度についての学習機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、共通認識と理解が得られるよう、わかりやすく説明を行うだけでなく、契約締結後も疑問点が生じた際には、気兼ねなく相談いただける関係の構築を目指している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、家族や入居者の意見を、職員が受け止めた場合には、管理者に報告し、意見の反映に向けての検討を行う手順の習慣をつけ実践している。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、カンファレンスなどで、職員からの率直な提案を聞く機会や、意見交換のしやすい雰囲気作りと機会づくりに努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と直接はなしをする機会を多く持っており、細部まで行き届くよう努めている。職員が気持ちよく仕事のできる職場環境の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修の受講機会には、積極的に受講を奨励している。持ち帰った情報をもとに、職場内の研修の機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会をはじめ、同業他社との交流活動に参加し、新しいネットワークの構築に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のペースを崩さない程度にコミュニケーションをとることを心がけており、なるべく本人の意向に沿えるよう、時間をかけて不安の除去に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを重視し、家族からの「どう接したらいいのかわからない」といった相談や、ホームでの暮らしに対する要望にも、近況報告を交え、丁寧な受けこたえを心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の優先順位の決定には、本人・家族・職員の意見交換により見極めを行うよう心がけている。また、地域住民によるインフォーマルな支援の併用により、多面的な関わりを心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	大きな家族として、入居者同士も暮らしの中の役割をそれぞれに担いつつ、共にたのしく暮らすことを目標にしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの場が離れていても、本人と家族との絆が基本と考え、職員は家族への近況報告を通して、積極的に話題提供を行い、面会時には、本人と家族の間のクッションとしての役割を担うよう心がけている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限を設けず、どなたでも面会できる環境を維持したい。本人との会話の中に、家族から情報提供をいただいた馴染みの人や場所の話題を織り込みつつ、忘れない支援を試みている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や雰囲気を見つつ、必要に応じて職員が話題を転換するなど、間に入ることもある。利用者によっては、そっと一緒に空間にいられることもできるような支援を目指している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の入居者への面会や、契約終了後の相談も可能な範囲で応じている。年賀状など、季節の挨拶のほか、退居後に亡くなられた場合でも、家族との付き合いが継続しているケースもある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ことばにならない要望や意思の受け止めや、ことばの意味とは違う本来の要望に対する理解など、本人とのかかわりを通して行動からよみとり、職員の感じたことを共有し、本人の意向把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や紹介者からの情報とともに、入居者のしぐさやむかし話に耳を傾け、生活歴や、生活パターンの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	病気との兼ね合いや心身の状況や背景となる情報を加味したうえで、入居者の言動について、簡潔な記録の実践を通し、職員相互の情報伝達と状況把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画案はケアカンファレンスの情報を反映し、家族や関係者との調整がなされて、入居者にとって快適な生活環境を提供できるよう心がけている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスや介護職員からの聞き取りからは、細かな気づきや工夫についての情報が抽出できる。記入時における目的をより明確に表現する取り組みが依然、検討課題である。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	昼夜を問わず生活全般の支援にあたるため、その必要性も多岐にわたる。必要性や個別ニーズへの状況に応じた柔軟な対応を目標に、「決めつけない介護」をめざしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ地域資源の把握と活用については途上であるが、老人会や行政機関との連携のほか、近隣の中学校からの職場体験学習の受け入れなどを通し、入居者には世代間交流の機会も創出している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの提携医療機関をかかりつけ医とする入居者が多いが、なかには、家族の意向により希望の医療機関を利用される入居者もある。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに勤務する看護師による健康管理のほか、准看護師資格を有する職員も在籍し、日ごろから入居者が受診の機会には助言したり、医師の指示を介護職員に伝達する役割を担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合、医療機関の担当者への情報提供を行うとともに、入院期間中の情報と、退院後の支援内容についての協議を重ね、面会により入居者の心身の安定をみて、早期の退院支援を行えるよう心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時など、早い段階から本人や家族と、その時点における意向確認の機会を設け、「入居者の心身の状況が重度化した場合における対応に係る指針」の確認・共有できるよう心がけている。また、必要に応じて、一家族ずつの面談も実施している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や高齢者特有の疾病による急変への対応について、勉強会を開催するほか、救急救命講習の受講を奨励している。緊急時に動揺しないように、模擬訓練の実施をすることも継続的な課題である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時には、ホームの近く居住する職員のほか、ホーム近隣の住民に協力・支援をいただけるよう、日ごろからの付き合いを大切にしている。避難経路の確認や、消防訓練も定期的実施している。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみをもちながらも、個人の尊厳を守り、慎重に言葉を選ぶ習慣づけを行うとともに、接するときの態度には注意を払っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わからなかったり、決められないときも、あせらずにゆっくりと接するよう心がけ、ことばを置き換えたり、時間を置いてもう一度確認をしたりするなど、希望を表現しやすい手法やタイミングを計っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側が時間配分の主導権を「つい」もってしまいがちなため、ゆったりと流れる時間の中で、生活を支える視点を大切に、できる限り入居者一人ひとりのペースや希望に寄り添えるよう心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの「色」には気をつけて着るものの選定を支援している。理美容は、美容室を開いている入居者の家族に支援を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの菜園で採れた野菜や、近所でいただいた果物も食卓を飾り、職員とともに作るパンは、つくすることも、たべることも楽しみとなっている。下膳を手伝って、流しに食器を運ぶ入居者は多い。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した食事の提供を行なうとともに、好みや咀嚼力など身体状況に応じた提供方法を実施している。食事の摂取量や水分量についての確認・記録を継続的に行なっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日ごろの口腔衛生への配慮として歯磨き、うがい、義歯洗浄などの口腔衛生に努めている。また、歯科医師の検診、義歯調整などの支援により、嚥んで食事をとることのできる方が多い。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる部分は見守り、必要に応じて排泄チェックや誘導を行っている。スムーズな誘導を実践し、一人ひとりの排泄のタイミングが安定することで、おむつの消費量を減らすよう心がけている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や食物繊維や乳製品の摂取や、散歩などの軽運動を働きかけることによる自然排便に向けての支援を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴順序の選択については、幅を持たせて考慮しており、会話を楽しみながら、ゆったりと入浴を楽しめる支援を心がけている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの安定をはかるよう心がけている。夜間のトイレのパターンなど、入居者一人ひとりの、その時々状況に応じた、さりげない支援を行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師に薬剤管理を依頼し、重複投与のないよう確認をしている。ホームでは、薬の処方と同時に出来る情報書を確認し、服薬の支援をすると同時に症状の変化の確認を怠らないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事が気になる入居者には、野菜づくりや水やり、草むしりなどを暮らしの張り合いにさせていただくなど、家族からの情報や生活暦や好みに応じて、自然体で暮らせる工夫をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に連れ立って出かける機会が多いが、近所の散歩やホームの畑に出ることも含め、ほぼ毎日の外出を実践している。花見や海を見に出かけたり、季節の催しに出かけることも多く、観劇の機会も設けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚の維持を目標に、日ごろの会話の中で、物の値段を話題にあげている。職員の見守りのもとで、可能な範囲で金銭に触れる機会を心がけているが、所持することには困難を伴う。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号など数字に対する認識のほか、家族や大切な人のことを思い返すことで、脳への刺激を与えるものとして受け止め、本人の状況によっては、家族への取次ぎの支援も行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、職員と入居者が一緒になって花や壁飾りを替えることで空間演出をし、自然光の入るリビングで、心地よく過ごせるよう心がけている。不快な音や光、振動のほか、除菌やにおいについても快適性を求めている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファのほか、ホームの中を自由に行き来でき、思い思いの気に入った場所で過ごしている。景色のよい窓際や、庭先の花壇の近くのベンチは、季節によって人気がある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具やベッドなどを持ち込まれるよう家族にも協力をいただいている。レクリエーションで作った、気に入った作品は、好みの場所への飾り付けて部屋を飾っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、ゆっくりつかまり歩きをすることにも支障がない。また、戸惑いの表情を見かけたら、職員からゆっくり順序だてて説明をし、納得を得よう、わかる力を活かした支援を目指している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム福住苑

目標達成計画

作成日: 平成 22 年 2 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議が年6回開催されていない	運営推進会議を年6回開催する	事前に運営推進会議の日程を決めておき、定期的を開催する。	12ヶ月
2		家族への説明記録が抜けている	家族への説明した後は、どの書類は提示し、説明したかをケース記録に記載する。	個人のケース記録に家族に名前及び続柄、提示した書類、内容等記載を必ずしていく。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。